# 三宮センター街(兵庫県神戸市)

# 1. 取り組みの概要

三宮センター街は、神戸市でも有数の賑わいを有する商店街であり、神戸市や金融機関等も参加する勉強会のなかで授乳施設のアイデアが出された。そのアイデアの実現性を確認するなかで、保育サロンの経営者と出会い、兵庫県や神戸市の支援を得て、センタープラザ5階に、平成19年3月に保育サロン「キッズ・バルーン」を開設した。運営は、保育サロンを経営する会社に委託しており、高い保育の質を保つとともにユーザー本意の営業時間(午前8時~午後10時)を設定していることなどから、ユーザーの評価は高い。

### 2. 商店街概要

商店街名	三宮センター街1丁目商店街振興組合
	三宮センター街2丁目商店街振興組合
	三宮センター街3丁目商店街振興組合
所在地	兵庫県神戸市中央区 1-6-18(1丁目商店街)
組合員(会員)数	109(1丁目商店街)
URL	http://www.kobe-sc.jp/

### 商店街の様子





#### 3. 取り組みに至る経緯・背景

三宮ンター街は、1丁目、2丁目、3丁目の商店街振興組合で構成されている。同センター街は神戸を代表する商店街として発展してきており、平日はもとより休日ともなれば大勢の買い物客で賑わっているが、商業集積が進んでいる大阪梅田(JR 大阪三越伊勢丹の新設や大丸梅田店、阪急百貨店の増床など)まで電車で30分の距離にあり、三宮センター街の活性化を推進している「神戸三宮マザーサポート協議会」の会長(前三宮センター街1丁目商店街振興組合理事長)は、強い危機感を抱いている。また、人口減少社会のなかで顧客から必要とされなくなるのではないかとの懸念を持っており、「人に必要とされる商店街でなければいけない」という信念を持っている。

また、様々な活動を通じて同会長は、商店街が活性化すれば街もよくなる、また、商店街は個店がばらばらではいけないとの考えを強くし、2006年、神戸市や金融機関等に働きかけた結果、1丁目から3丁目の商店街で活性化に向けての勉強会を行うことになり、同勉強会で観光案内所と授乳施設の整備についてのアイデアが出された。

### 4. 取り組み内容(保育サロン「キッズ・バルーン」)

授乳施設の実現に向けては、勉強会を行うなかで、加古川で保育サロンを開設していた株式会社チャイルドハートの経営者と知り合い、三宮センター街での開設に向けての勉強会を行うことになった。株式会社チャイルドハートは、乳幼児の保育事業及び教育の研究・インターネットを利用した乳幼児の保育及び教育に関する情報の提供を行う会社として、平成12年12月に(財)ひょうご産業活性化センターとみなと元気ファンド投資事業有限責任組合等の出資により設立され、平成21年3月には経済産業省の日本ソーシャルビジネス55選に選定されている。

実際に調査を行うと、三宮センター街の周辺地区では保育所が不足している状況が明らかになり、子育でをする家庭の親が如何に安心して子供を預けて働けるかを考えた。兵庫県の協力もあり、三宮センター街1丁目~3丁目商店街振興組合と県の振興局を交えて研究することになり、平成18年4月に協議会を設立し月1回の研究がスタートし、半年間の研究を経て実施に向けて合意した。

開業資金は、兵庫県の「先導的活性化事業補助金」(平成 18 年度~20 年度)、神戸市の「空き店舗活性化」(平成 18 年度~21 年度)及び「地域力アップ」(平成 18 年度~20 年度)の補助金が得られ、神戸センタープラザ西館の 5 階の 230 ㎡を活用してオープンに向けての準備を進め、平成 19 年 3 月に「キッズ・バルーン」(許可外保育施設)としてオープンした。認可外施設としたのは、認可施設であれば行政支援が厚くなるものの、規制が厳しく預かり時間や保育の質といった面で本来のサービスができなくなるためである。同保育サロンの理念は、子供の安心、安全、保護者への情報開示を大切にし、質の高い保育サービスを提供していくとともに、保護者のニーズを素早くキャッチして運営に反映することである。施設は、昼寝スペース、フリースペース、授乳室、トイレで構成され、広く明るい

開放感たっぷりの空間を有し、清潔と安全面にも十分な配慮がなされている。また、毎日のカリキュラムは、歌、リトミック、ことばの表現遊び、右脳開発遊びなど、一人ひとりの成長に合わせたきめ細かな配慮がなされている。さらに、会員には Web カメラを利用してインターネットで乳幼児の様子を確認できるようになっている。営業時間は、午前7時~午後10時と利用者本位の設定がなされている。

利用料金は、月極保育の場合、入会金 5,000 円 (税込)、保険料 1 ヶ月あたり 1,000 円、一時預かりの場合、入会金無料、保育料時間あたり 0 歳 (生後 45 日) ~1,000 円 (税込) となっている。「キッズバルーン」は地元の美容院や映画館とも連携して、利用者が連携店を利用する際には割引制度があるほか、(株)神戸サンセンタープラザが運営している駐車場の割引制度もある。

運営母体は、三宮センター街1丁目、2丁目、3丁目商店街振興組合と(株)神戸サンセンタープラザで構成する「神戸三宮マザーサポート協議会」で、株式会社チャイルドハートに運営委託するかたちをとり、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所が協力している。

### 子育てサロンの様子









#### 5. 取り組みによる成果

#### (1) 成果

保育サロンの顧客の評価はよいが、商店街への買物需要による売上効果は、期待の1割にも満たないのが現状である。しかし、商店街としては、商店の従業員の乳幼児を預かることができるといったことが採用し易さに結びついている。

神戸マザーサポート協議会の会長は、将来、サロンの利用者がセンター街でお世話になったという繋がりができると良く、住むのであれば神戸といった評価に繋がればよいと考えている。また、生活する人が多い街では商店街が良くなり、街もよくなる。やはり街には人と人の繋がりが必要であり、子育て機能も必要な機能であることは間違いないという。

#### (2) ポイントや工夫

このような成果をもたらしたポイントや取り組み上の工夫として、以下の点をあげることができる。

- ・ 三宮センター街の活性化を推進している「神戸三宮マザーサポート協議会」の会長は、 商店街の将来に対して強い危機感を抱いている。また、人口減少社会のなかで顧客か ら必要とされなくなるのではないかとの懸念を持っており、「人に必要とされる商店 街でなければいけない」という信念を持っている。
- ・ 2006 年、神戸市や金融機関等に働きかけた結果、1丁目から3丁目の商店街で活性 化に向けての勉強会を行うことになり、観光案内所と授乳施設の整備についてのアイ デアが出された。
- ・ 授乳施設の実現に向けては、勉強会を行うなかで、加古川で保育サロンを開設してい た経営者と知り合い、三宮センター街での開設に向けての勉強会を行うことになった。
- ・ 開業資金は、勉強会に参加していた兵庫県、神戸市から補助金が得られた。

#### 6. 今後の課題と展望

### (1) 保育サロンの継続

保育サロンは、街にとって必要な機能であるものの、商店街独自で支えていくことは難 しく、何らかの行政支援が必要となっている。

### (2) 特色ある商店街づくり

前述の勉強会において、観光案内所のアイデアが出され、平成 18 年 2 月、センタープラザ 1 階に街の魅力を発信するとともに「やさしさ」・「暖かさ」・「話題性」を持ち、来街者に対して安全・安心で満足いただくもてなしの場となる施設として「三宮インフォメーションギャラリー」を設置した。インフォメーションセンターの北側半分は約 14 ㎡のギャラリースペースとなっており、神戸にちなんだ作品展示会等、市民や来街者に気軽に利用してもらえるようになっている。運営は、さんプラザ、センタープラザ、センタープラザ西

館、三宮センター街1丁目、2丁目、3丁目商店街振興組合、三宮本通商店街新興組合、 三宮本通り・京町筋商店街協同組合、生田前筋商店街振興組合が行っており、株式会社神 戸サンセンタープラザが事務局を務めている。

# インフォメーションセンター



